

# テメキュラ市 訪問記

今年の7月29日から8月9日の日程で、大山町の姉妹都市アメリカのテメキュラ市を中学生8人が訪問しました。交流事業の感想文の一部を紹介します。



## 名和中学校 2年 河本 龍

この研修を通して、自分の英語力を高めたり、いろいろなことにチャレンジしたりしようということを心に決めていました。



テメキュラに着いた頃は、テメキュラの人にたくさん質問されたけれども、話すスピードが速すぎて何を言っているのか、よく分かりませんでした。自分の思いが、ホストファミリーに、うまく通じないこともあったのですが、「何とか自分の気持ちを伝えよう」と思いながら会話をしました。その気持ちを察して、ホストファミリーの人たちが真剣に聞いてくれたおかげで、たくさんの方が通じたように思います。研修の後半では、遊んだり活動をしたりする時は、自然に英語が出るようになりました。自分から積極的に話すことにより、どんな人とも仲良くなることができ、気軽に話せるようになっていくことが分かりました。

## 大山中学校 3年 島田 果奈

私は12日間の研修の中で、ホストファミリーと過ごした日々が一番楽しかったです。初日は、緊張していて、何を言われても頭が真っ白になってしま



い、答えられなかったり、あいまいな返事をしたりしていました。しかし、ホストファミリーが優しく接してくれるので、次第に緊張も解けていきました。私が言ったことを、一生懸命に理解しようとしてくれて、とても嬉しかったです。

ホームステイをしている中で、家族の大切さも実感しました。ホストファミリーと別れの日が近づくにつれて、「まだここにいたいなあ」と思ったけれど、「早く家族に会いたいなあ」と思ったし、家族と離れてみて「もっと感謝の気持ちを行動に表さないといけなあ」とも思いました。アメリカでたくさんのことを学んで、少しは成長できたと思います。

## 大山中学校 3年 林原 穂高

アメリカに着いた時から新しいものをたくさん目にしました。初めに渡されたペットボトルのキャップは薄く、本体が潰せるようになっていました。資源が削減されるのでとても良いものだと思います。



ホームステイでは、初めの頃は慣れない英語に苦労しましたが、少しずつ慣れて聞きとれるようになりました。ホストブラザーのマコトとバスケットボールをしたり、スケートボードをしたりして遊びました。また、日本から持って行ったけん玉や折り紙などでも一緒に遊びました。アメリカ人は、みんな自分の考えをしっかりとっていて楽しそうでした。ホームステイでは英語力より、良い表情の方が大切だということに気が付きました。とても楽しく、現地でしか分からないことをたくさん学べた研修でした。

## 中山中学校 2年 奥田 みき

日本の良いところとアメリカの良いところが分かりました。アメリカでは、ハンバーガーはおいしく、メキシコの料理もあって面白かったけれど、味が濃くてたくさんの量を食べることができませんでした。特にピザを食べた時は、味が濃すぎて、日本食を食べたいなあと思いました。アメリカから帰って最初に羽田空港で食べたうどんが、本当においしく感じられました。日本の食べ物のおいしさを改めて感じました。



アメリカが良いと思ったのは、ゴミ箱です。町の中にたくさんあって、とても便利でした。また、それぞれの学校には、マスコットが決まっていて、外は全て芝生で気持ちが良かったです。日本の学校も、マスコットを作れば良いのと思いました。